

編集後記

アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル (AJJ) 第 16 号は、実践報告 4 編、調査報告 4 編、短信 2 編の計 10 編の掲載となりました。すでに何度も投稿くださっている方々ばかりでなく、比較的新しく会員になった皆様からも積極的な投稿があり、会員のみなさまが自由闊達に議論できる場となっていることをうれしく思っております。

今号で注目したいのは、これまでの AJ 研究を概観し広義の AJ 教育研究の重要性を論じた堀井氏の論考です。第 1 号の堀井氏の活動報告と第 10 号の門倉氏のエッセイと合わせて読むことで、AJ 教育研究の来た道と行く道について改めて考えさせられます。その他、ライティング・読解・聴解・文法教育、韻文を用いた日本語教育など、さまざまな論考があり、教育の接続、自律学習、協働学習など広義の AJ を考えるうえでのキーワードが含まれています。今号を通して、今後の AJ 教育と AJ 研究の進む道について、また新たな議論が広がることを期待しております。

編集委員よりみなさまに 1 点お願いがございます。本ジャーナルは査読誌ではありませんが、AJJ 編集委員会およびアドバイザーがピアレビューを担当しており、会員の皆様の実践や調査に基づく知見を広く共有するためのアドバイスを行う上では、議論を重ねながら、発行までの段階を進めております。限られた期間でピアレビューを行うこととなりますので、そのメリットを最大限に生かしていただくためにも、ご投稿の際にはまず投稿規定をお読みいただき、本ジャーナルの趣旨をご理解いただいたうえでご投稿いただけましたら大変ありがたく存じます。

17 号もみなさまと実り多い議論ができますことを楽しみにしております。

(編集委員 M.K.記)

刊行：2024 年 8 月

編集委員* (**は委員長)・アドバイザー五十音順

安高紀子 (明治大学)・*石澤徹 (東京外国語大学)・*伊藤奈津美 (山梨学院大学)・
牛窪隆太 (東洋大学)・大島弥生 (立命館大学)・大野早苗 (順天堂大学)・
*小笠恵美子 (昭和音楽大学)・*数野恵理 (立教大学)・
**小森万里 (大阪大学)・高橋薫 (創価大学)・*田中信之 (富山大学)・
内藤真理子 (電気通信大学)・*藤田裕一郎 (朝日大学)・
松本明香 (東京立正短期大学)・*宮崎七湖 (新潟県立大学)・

山口麻子（テンプル大学ジャパンキャンパス）・吉田美登利（東京工業大学）